

**Q** 保護者との信頼関係を構築することの大切さについて、若手教員にアドバイスするとき留意したことを教えてください。

**A** 現在奈良県のみならず全国的にベテラン教員の大量退職・若手教員の大量採用が進んでおり、教職員は急激な世代交代の渦中にあります。

そのような状況の中であって、フレッシュな感覚をもち、教職に情熱を注ごうとする若い教員に、学校の管理職やミドルリーダー層の教員は、教育全般にわたって適切な指導や温かい助言を続けていかなければなりません。

子どもの教育を進めていく上で重要なキーポイントの一つが、教職員と保護者との良好な信頼関係の構築であると考えます。子どもの健やかな成長や、温かい集団づくりを目指す上で、大きなバックボーンとなるのが、保護者との信頼関係でしょう。保護者の価値観の多様化、教員に課せられた日々様々な仕事もあって「なかなかうまくいかない、また、十分にはできていない」という状況かもしれません。

しかし、信頼関係というものは、何事を進める上でもその基盤となるものであると考えます。その信頼関係の糸をつないでいこうとする先生たちの姿勢や思いは、いつの日か相手に届き、さらにつながった糸は徐々に太くなっていく。そう確信しています。

その第一歩となる機会が新学期当初の家庭訪問にあります。子どもの自宅の確認をし、そしておおむね 10 分程度という本当に短い時間ではありますが、この機会を保護者との良好な信頼関係を築く足掛かりにしたいものです。そして、何か気になることがあれば、家庭訪問を行い、保護者とフェイス to フェイスで話し合うことで、より信頼関係を築き課題解決を行いたいものです。

「眼聴耳視（がんちょうじし）」という言葉があります。子どもの生活背景や保護者の思いを「目で聴き、耳で見る（人や相手の話を、目を見て聞く良好なコミュニケーションづくりの基礎）」姿勢で臨むことが大事だと考えます。以上のことなども、良好な信頼関係づくりにつながっていくのではないのでしょうか。

校種

小学校・中学校